

令和6年度 千葉県公立高等学校入学者選抜に関する協議会（第2回）【概要】

日時：令和6年10月4日（金）午前10時から正午まで
会場：ホテルプラザ菜の花 5階「あやめ」

1 出席委員（敬称略・名簿順）

佐藤 智司、野上 亮、高梨 祐介、武富 恒徳、榊原 正策、丸 庸仁、
佐久間 勝彦、粕谷 哲也、富永 安男、鶴岡 克彦、木村 得道

2 次 第

（1）開会のことば

（2）県教育委員会挨拶

（3）委員紹介

（4）報告

令和6年度千葉県公立高等学校入学者選抜に関する協議会（第1回）の概要について

（5）協議

ア 現行の千葉県公立高等学校入学者選抜の課題について

イ 令和8年度千葉県公立高等学校入学者選抜日程案について

ウ その他

（6）閉会のことば

3 報告に対する意見・要望等

【令和6年度千葉県公立高等学校入学者選抜に関する協議会（第1回）の概要について】

- 東京、神奈川、埼玉などの他都県の日程を示していただかないと千葉県の日程が適切なのかどうかは分からないので、次回に示していただきたいと発言した記録が抜けている。
→事務局で修正した第1回の概要を、各委員に確認いただく。

4 協議内容

ア 現行の千葉県公立高等学校入学者選抜の課題について

【事務局説明概要】

○新しい入学者選抜の総括

- ・令和3年度選抜から3年間のアンケート調査を実施。
- ・入学者選抜が一本化したことについて、年度を重ねるごとに不安は解消。
- ・教職員の入試業務の負担が減少したかについて、肯定的な回答が8割以上。
- ・学力検査が2日間となったことで受検者の負担が適切であったかについて、肯定的な回答が8割以上。
- ・新しい入学者選抜は負担軽減となり広く受入れられたものと考え、検証を終了する。

- 一本化については不安が解消したとのことだが、一本化の時期について2月下旬としていたものが早くなっている。

- (令和6年度入学者選抜試験に関する調査の配付) 私立高校のみのアンケートから、進学先を決定するにあたって参考としたもの、進学先を決定する際に重視したもの(学校の施設、通学の便、部活動)、公立入試一本化等々で、そのことの進学先を決定する影響、2月下旬の入試日が適切か、公立の定員未充足校が増えている背景をどのように考えるか、をまとめた。
- 他都県は2月の下旬に試験をやっているわけで、発表まで何日とってるか等を示してほしい。

ア 現行の千葉県公立高等学校入学者選抜の課題について

【事務局説明概要】

○調査書について

- ・ 広島県、埼玉県、長野県、岐阜県の状況を説明。
- ・ 千葉県の調査書から項目を削除した様式のイメージを示す。
- ・ 市町村教育委員会(54市町村)アンケートから、システム等の改修費用が発生すると回答したのは、4市町村だった。
- 削除する項目として挙げられているものは、加点するなど点数化できない項目であるため、受検者には直接の不利益がないと考えられる。令和8年度選抜(令和7年度実施)からでも可能である。
- 調査書の総合所見については数値化していないこと、また、行動の記録は、校内の整合性はとれるが、他校との比較になると難しい面もあることから、削除を進めてほしい。
- 私立高校はそれぞれの設置者が行うから、公立高校の調査書について言うべき立場にはない。しかし、中学校側から公立高校に提出する調査書に準じてほしいと要望はある。
- 入学した後、3年間学んで卒業できるかどうかということは、中学校時代の出席状況が重要な資料になる。子供のためにとった場合、中学校での成績だけでなく、生活面でどうであったのかを進学先にお知らせいただくことが必要だと思う。
- 各高校は、選抜評価方法を基に選抜している。削除を検討している調査書の項目は、選抜評価方法で数値化するものに含まれていないため、削除できると思う。
- 中学校時代の出欠は気になるが、高校には、入学の際に中学校から要録等の写しを送っていただくため、中学校での様子については確認できる。現在、選抜に関して、欠席が多いとか少ないとかというのは、加点していないので、削除も問題ない。
- 千葉県の公立高校が皆勤の場合に加点しているのではないか。出欠の状況について、コロナがあってから、欠席扱いした学校と出席すべき日数から外した学校があるなど曖昧なところがあったり、また個人情報などの観点で、外した方がよいと思うが、首都圏(東京、神奈川、埼玉)の状況はどうか。
→(事務局) コロナ後は、文科省からの通知等もあり、受検者に不利益にならないよう、千葉県の公立高校は皆勤を加点していない。また、東京・神奈川は、出欠の記録を調査書からはすでに削除しており、埼玉県は2年後から削除する。
- 全国的な流れも含めて調査書の項目を精選していくというような方向性について

ては、賛同の意見である。

- 中学生とその保護者、中学校、高校また関係機関（市町村教育委員会）には、丁寧に情報提供し調整してほしい。中学生には不利益にならないような形で配慮をお願いしたい。
- 選抜評価方法で活用していた高校が、適切に評価する選抜方法について検討する時間が必要である。
- 先行実施している県の成果と課題については情報提供してほしい。本県での実施の際に活かしてほしい。
- 教職員の負担軽減ではなく、子供たちにとって不利益にならない制度となる必要がある。例えば、調査書の項目で加点となるようなものも、小規模校と大規模校では違いがでる項目がある。小規模校では、委員長、部長など様々な取組ができるが、大規模校では、やりたくてもできない子がいる。真面目にこつこつ頑張ってきた子供たちの不利にならないような制度改正にしていきたい。
- 大学の一般選抜の場合は、調査書の評価は参考資料として使い、総合的に判断している。特別選抜で面接が含まれる場合、調査書を使って評価した上で人物を見ている。他県の高校入試でも面接を含めた形であれば、面接資料としての調査書の価値は意味をもってくると思う。
- 調査書の書面だけで数値化すると調査書自体がやはり試験答案のように採点されてることになり、書いた人、それを点数化する人という人を介したところの生徒本人ではない部分のものが評価されることは、危険を含む気がする。調査書に点数をつけられないのは、大学以外でも当然同じではないか。
- 褒め方のうまい先生の手で書いた文章だと、すごく良い生徒になってしまったりするかもしれないし、記述部分が簡素化されるということは評価できる。
- 子供たちにとってどうかという視点は、大事な視点である。調査書が簡素化されても、他県の高校入試のように、全員に面接を実施すれば、面接の中で頑張ってきたことなどを聞くことはできるため記載しなくてもよいのではないか。面接の試験を実施するかどうかとも関連してくるところである。

ア 現行の千葉県公立高等学校入学選抜の課題について

【事務局説明概要】

○検査（国語の聞き取り検査）について

- ・実施県の状況を説明。
- ・国語の聞き取り検査と英語のリスニングテストについて、学習指導要領の目標などを確認。
- ・聞き取り検査を廃止する場合の周知期間について御意見をいただきたい。

○外国人の特別入学選抜について

- ・千葉県の日本語指導が必要な児童生徒数、外国人の特別入学選抜の予定人員について説明。
- ・予定人員を増やすための実施方法、選抜評価方法について御意見をいただきたい。

○転学・編入学について

- ・千葉県の令和4年度の中途退学者数について説明。
- ・千葉県の転学の要件拡大の案について説明。

【国語の聞き取り検査について】

- 聞き取り検査で見取っていた内容が、聞き取り検査でなくても実施できるのであれば、変更も可能ではないか。ただし、検査問題の工夫は必要である。公表の時期については直前では受検者が困るので、入学する前、入学した後でも1年生ぐらいの時期には、準備のために公表し、早めに周知してほしい。
- 周知について、出題方針が大きく変わる部分もあると考えられ、中学生にとって十分な時間が必要ではないか。国語の聞き取り検査と英語のリスニングテストとは、求められているものが異なっていると感じる。
- 聞き取り検査にかえて、話し合いの会話文等、話すと聞くの関連をはかった問題を出すことを妥当だと示していただいたが、聞き取り検査で何が話されていたかを検査するよりは、主体的対話的で深い学びの対話的な学びの部分で高校入試で出題してもらえば、中学校での学びとも一致する。
- 高校入試にあるため、中学校では定期考査等で、国語の聞きとりを実施している。例えば、現2年生などは3年間のうちの1年半の中学校生活が終わっていて、高校入試で国語には、聞き取りの検査があるイメージを持っている。他の委員からもあったが早めの周知が必要であると思う。
- 定期テスト等では対応を図って準備をしているが、業者の模擬試験では、実施が無い場合もある。定期考査の内容等も変わってくるため、準備期間が必要であり、周知は早めをお願いしたい。
- 社会全体の流れや、コロナを機にコミュニケーション不足等の話題がある中で人の話を聞く、話をするということは重要視されている。問題文でケアできるのならば変更も可能であるし、面接等を重視しながら入試を実施することも検討した方がよいのではないか。
- 中学に入学した段階で国語の聞きとり検査がなくなるということは周知しておく必要があるかもしれない。
- 国語の聞き取りの検査は、かつては日本全国47都道府県の検査で実施していたが、今ガラパゴスのように3県しか実施していないという状況なのか。入試改革が、中学校の教育にも大きく影響することがよくわかった。

【外国人の特別入学者選抜について】

- 高校現場は、日本語指導が必要な児童生徒の数が多くなっている実感があり、対応が負担となっているところもある。ただし、外国人特別入学者選抜の志願者が多い学校や志願者がゼロの学校があるなど、特別入学者選抜の拡充の方法は事務局の方で精査して考えほしい。
- 外国人特別入学者選抜は、在日期间が3年以内という条件があるが、それが適切なのか、各地域にそれぞれ拠点として外国人特別入学者選抜の実施校が設定されているが高校の選択肢としていくつか高校があるほうが、受検する側にはメリットがあるなど、特別入学者選抜の在り方を検討してほしい。
- 社会的な背景を考えるならば、外国人特別入学者選抜については拡充していく方向になると思う。改善の方向は、示された3つの案に一長一短があることから、今後も慎重に議論していくことが必要ではないか。県教育委員会からは、学校にポкетーク等の物的な支援をしてもらっているが、外国人の入試を拡充していくのであれば、物的また人的な支援も検討してほしい。
- 進学したい学校に試験を含めてルールがあり、進学の方が多くなった上で、

学校生活を送られるような、子供たちが不利益にならない配慮を検討してほしい。子供たちが、進むべき方向性を見出していけるような入試の制度、改革を進めてほしい。

- 外国籍の子供たちも、特別入試で受検するか、一般入試で受検するか、中学校3年生でないと決まらない場合もある。受検の人数の予想は難しいところである。外国人選抜を受検しても不合格では、二次募集を受検しなければならない。特別入試を全ての高校で実施となれば、志望変更が可能となり、受検の前に調整できる。志願変更の機会が全ての子供に与えられるような改革をしていただけるとありがたい。
- 棒グラフから中学校の在籍者が、その後全て高校の在籍となっているのではないところから、外国籍の生徒の進学率が低いか、もしくは中学校で教育を受けると日本語を話せるようになり日本語指導がいらなくなるのか、読み取り方が難しい。現実的には、案2で実施校を増やし、将来的には全校に拡大する案3も見据えることで、受け入れ体制が整うのではないかと考える。

【転学・編入学について】

- 私立高校の調査からは、中途退学者、進路変更者が、過去3年で増えている。通信制高校への進路変更が多い。通信制高校の拡大が今後も進むのか、全日制の高校に毎日通うことができない子供が多くなっているのか、課題を整理しないといけない。通信制高校は多様化が進んでいる。
- 退学者の理由が、「学校生活・学業不適応」が多いが、転学者も同じ理由だと想像できる。現実を見れば、転学の要件を拡大することは、大事だと思うが、高校は、入学試験があるため、無条件で転学可能というわけにはいかないのではないかと考える。今すぐ拡充することは、難しいと思う。
- 資料から、「学校生活・学業不適応」という項目が、突出して多いことから、公立高校の生徒であって再チャレンジの場を、転入の場に求めるというのなら、三部制の定時制や学び直しを掲げるアクティブスクールを含め、検討していくことも大切なのではないかと考える。
- いじめ、虐待などの緊急性がある転学について、不定期に対応していけるような制度を考えていくことも、生徒に寄り添った制度となるのではないかと考える。
- 学校に行けなくなって退学した生徒にとって、転学の制度が出来たからといってチャレンジできるかは、また別の角度の問題もあると思う。不登校児童対策、いじめ問題調査会を千葉県で対策していることを踏まえながら転学の問題について検討してほしい。また、専門家の福祉的な視点での課題の整理もあるなど、様々な考え方を入れながら検討してほしい。
- 転学の要件が緩和されることで救われる生徒がいるのであれば、実施時期は早いほうがいいと考える。

イ 令和8年度千葉県公立高等学校入学者選抜日程案について

【事務局説明概要】

- ・ 第3回の協議会で、他都道府県の日程を示す。次回の協議会で御意見いただきたい。
- ・ インターネット出願の登録期間について説明。

- インターネット出願を全校で実施することのメリットは、中学生が授業を受け

ないで、それぞれの高校に願書を出しに行かなくて良いことである。出願受付や志願変更などは、インターネット出願になる前の日程で設定しているが短縮できるので、東京その他を踏まえて2月下旬に本検査を行っていただきたい。

- 出願や志願変更に関することについては、子供たちの抱えている実状から、全ての子供が手続きを確実に行うことができるとは限らない。中学校からのサポートが必要となる場合もあることを考えると、日程は、ゆとりある設定であることが好ましい。
- 中学校では、本検査に向かわせるに当たって全体的な指導や確認を行っており、土日空いて月曜日に本検査というようなことでなく授業日の翌日に本検査があるという形が望ましいと考えている。日程案のように、火曜日水曜日に検査をもってくるというような曜日で設定していく方向でよいと考える。
- 入試の日程については、やはり火曜日水曜日の方が現場としてはありがたい。
- 中学校が承認処理をした後、生徒は受検料を納付し、それを確認した上で宛名票が印刷できる。それから調査書の郵送となるので、インターネット出願期間が出願期間のギリギリとなって宛名票を提出してくる生徒もいると思われ、中学校から郵送することを考えると出願期間はやはり3日間ないと不安である。
- インターネット出願では、志願者の状況がわかるので、その後の志願希望変更の作業は少し早くできる。例えば、出願受付している時点にも希望変更があって、自動的に動くならば、志願変更は全体的に後ろ倒しできるような気もする。ただ、令和7年度の日程案で実施した上で、スムーズにいくかどうか。ミスがあると大変なことになる。

次年度以降、余裕を持ち過ぎていて、だらけることになるのは、受検者にかわいそうである。

- 志願変更は出願倍率が公表されて、自分が目指しているところが想像以上に高い倍率になったと分かったときに、もう1つ同時に考えていた高校に変えようというような流れの中で起こってくる。そういったところからすると、志願変更の日程には、倍率が公表され、再度検討する時間が必要となる。
- 将来的に、3週間あるインターネット出願期間のところで出願状況を、2回か3回中間報告のように公表すると、どこの高校に殺到しているか、事前にある程度分かるので、出願から受検までの日数を減らせる可能性もある。
- 長い期間を使って進路指導してきても、出願倍率が出てぐらついてしまう生徒もいるのが現実である。高い倍率を見たときに「やはり仕方ない。別の高校にしようか。」と考えが変わる生徒に、「それはダメだよ。強い決意を持ち続けよう。」とは言えない。
- 東京その他の県が、どのような期間にどのようなかたちで子供のための進路指導をしているかを参考にしたい。